２０２３年度　公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費　実績報告書

2024 年　3 月　29 日

北九州市立大学長　様

（所属・職名）　法学部政策科学科　准教授

（氏名）　中井　遼

公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費に係る研究実績について、次の通り報告します。

研究課題名	リベラルナショナリズムの実証研究：Homo-/Femo-/Eco-nationalism を中心に					
	合計	使用内訳（単位：円）				
交付決定額	575750	備品費	消耗品費	報酬	その他	旅費交通費
執行額	575750	0	0	0	175000	400750
執行残額	0					
共同研究者	所属・職名		氏名		役割分担等	

研究分野：

キーワード：

研究成果の概要（和文）

環境保護を求める環境主義と、ナショナリズムは、時に敵対するものとして見られがちであったが、両者が同時に発生する環境ナショナリズム現象が存在する。世論の状況を国際的にみると、両意識が世論内で対立するのは一部の欧米諸国に限られ、世界的には環境保護とナショナリズムを両立させる意識を持つ人々が多い国のほうが多数である。日本では両政治意識は（総体としては）対立も同居もしておらず、別の政策次元をなしている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的には、近年着目度が高まっている環境ナショナリズムを国際的、統計的に理解する基礎研究を提供したことになる。社会的には、エネルギー転換・環境保護・SDGs の目標達成に対する、世論における阻害要因あるいは促進要因を考える際に、安直に欧米の事例をあてはめることが適切ではない注意点を示した。また時にナショナリズムという極めて動員力の強い政治意識の中に環境保護の論理が含まれることを示した。

1．研究の背景

本研究は，政治的対立のうち社会文化的争点における対立の，現代的な捻じれ現象について，日欧を中心に文献調査と世論調査の実証的手法を組み合わせて検証するものである。

一般に、政治的な対立は経済的次元における左右（市場志向か再分配か）と、社会文化次元における左右（保守かリベラルか）によって整理されることが多い。この際、後者の例としてよく用いられるのが GAL-TAN 軸という整理である。GAL は Green 環境保護 Alternative 新しい価値観 L リバタリアニズムの略語で、TAN は Tradition 伝統 Authoritarian 権威主義 Nationalism ナショナリズムの略語である（Hooghe et al. 2002）。このように、通常、環境運動や新しい性自認の尊重などは、ナショナリズムとは対極の概念にあると観念されてきた。

ところが、近年の政治現象はこれが当てはまらないことを示しつつある。いわゆる、社会文化的に「リベラル」とされる価値観の保有者が、同時に（時に排外的な）ナショナリスティックな感情を有する傾向が着目されている。例えばその一例として、「ホモナショナリズム／フェモナショナリズム」現象は、特に西欧諸国を中心として、男女平等の重視する者や、同性愛を是認する者が、その理由故にこそ非欧州からの移民を当該価値観を共有できない相手とみなし、排外的な態度をとる（Leon 2019, Lancaster 2020）。近年の研究によると、こういった価値観体系を持つものは、有権者の 15%とも 60%ともいると試算されており決して特異な現象ではない（Spierings & Glas 2021; Kwon et al. 2022）。「エコナショナリズム（グリーンナショナリズム）」は、環境保護を重視する観念が、自国の伝統文化の言説としてリフレームされることを通じて、環境運動とナショナリズムが結節する運動や政治意識である（Kernalegenn 2022）。

2．研究の目的

本テーマは理論的にはかねてより蓄積があったところ、近年実証研究の成果も蓄積されてきている。ただしやや西欧中心であり、日本や東欧圏を対象としたものはあまり多くはない（これは欧州には欧州社会調査（ESS）や欧州価値調査（EVS）といった、環境・ジェンダー・ナショナリズム関係設問をすべて含んだ調査が多くなされているためである）。世界価値観調査を用いた申請者のプレ調査によると、特にエコナショナリズムは東欧圏の方が顕著であり、日本も環境保護とナショナリズム態度の相関が弱いという特徴があることから、興味深い分析対象となっている。本調査は、これらのテーマについて、実証的知見の少ない地域を対象に、より幅広い知見を蓄積することを目的とする。そのために、さらなる個別研究や文献資料の渉猟と、必要に応じての独自世論調査を実施する。

3. 研究の方法

本研究では前期期間を主に文献研究や既存データ分析の期間にあて、独自世論調査を実施する場合、後期の実施を目標としていた。

おおむね研究はこの通りに展開した。既存データセット WVS を通じて環境主義とナショナリズムの関係性を国際比較的に分析した成果をイギリスで実施された国際学会で報告し、フィードバックを受けて論文化した。夏季休業期間中に日本で同じく環境主義とナショナリズムに関するオンライン世論調査を実施し、データのクリーニング作業を行った。

4. 研究成果

先述の通り、既存国際世論調査を用いた比較分析の成果は、次の形で報告された。

Nationalism and Nature: An Empirical Survey Analysis of Environmental Nationalism, International Political Science Association Colloquium of RC 43 Religion and Politics & RC14 Politics and Ethnicity. June 1st 2023, Queen's University Belfast, U.K.

Nationalism and Environmentalism from the Global Perspective: A Comparative Survey Analysis of Eco-Nationalism, 6th Japanese Consortium for Political Science 2024 年 3 月 26 日

「複合政策領域に対する政治学的貢献： バルト諸国のエネルギー安全保障と グリーンナショナリズムの観点から考える」外交・安全保障調査研究事業費補助金「国際理念と秩序の潮流：日本の安全保障戦略の課題」 研究会「エネルギー国際秩序における日本の立場」2024 年 3 月 21 日

また、現在、結果概要を期した邦語論文が国内誌より観光途中であり、理論的検討を深め、事例への検討を接続した英文論文が国際査読誌より Accept with minor revision という状態にある。